

## プロロジス、初のフィジカル PPA サービス契約を 大阪ガスと締結

～「プロロジスパークつくば 2」の太陽光発電設備を活用～

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)と大阪ガス株式会社(本社:大阪府中央区、代表取締役社長:藤原 正隆)は、電力・環境価値を直接販売する電力売買契約(フィジカル PPA)を3月29日に締結しました。電力や環境価値は、プロロジスが開発した物流施設「プロロジスパークつくば 2」の屋根面に可能な限り設置される太陽光発電設備に由来します。フィジカル PPA を活用した契約はプロロジスにとって初めてです。両社は FIP 制度を活用します。

### ■ フィジカル PPA について

フィジカル PPA は、需要場所から遠く離れた場所に設置した太陽光発電設備の発電電力を、送配電線を介して需要家に届ける方式を指します。需要家は長期にわたって発電設備の電力と環境価値を一定価格で購入することが可能です。

プロロジスは2023年、物流施設「プロロジスパーク古河 4」屋根面設置の太陽光発電設備を活用し、サッポロ不動産開発株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:宮澤 高就)とバーチャル PPA サービス契約を締結しました。

### ■ FIP 制度について

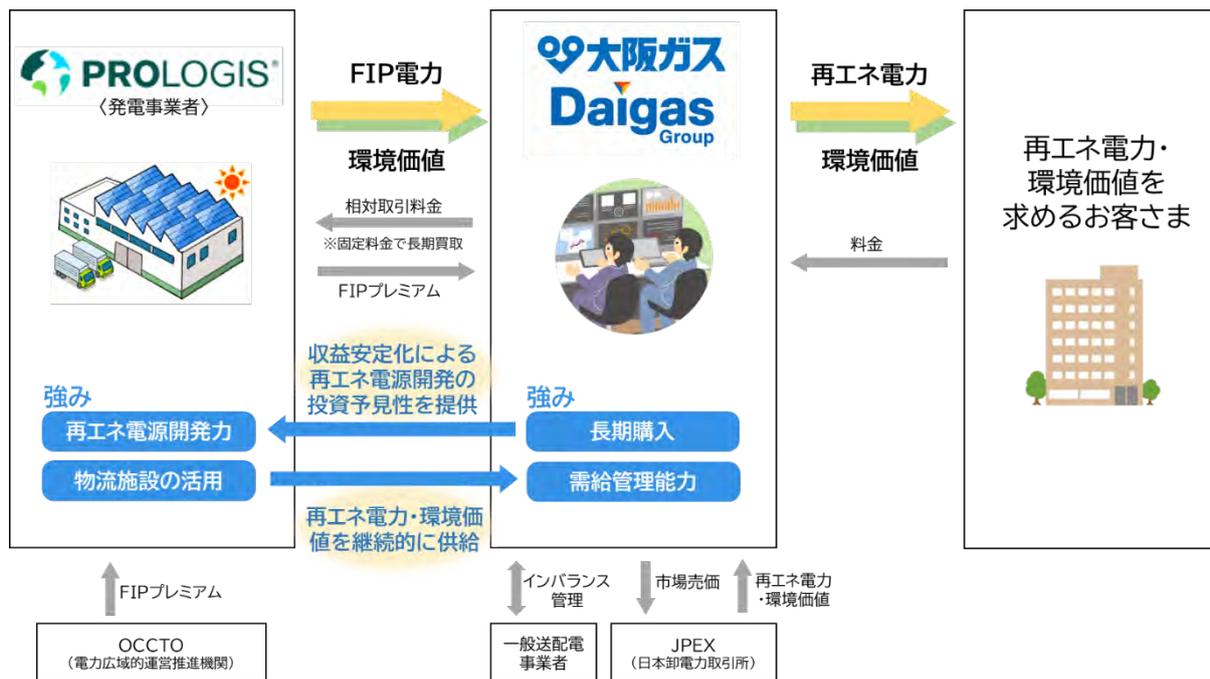
FIP 制度は、フィードインプレミアム(Feed in Premium)制度の略称。再エネ発電事業者が発電した電気を卸電力取引市場や相対取引で売電をした際に、電力広域的運営推進機関が基準価格(FIP 価格)と市場価格の差額をプレミアム額として交付する制度です。

FIP 基準価格は発電所毎に原則として入札制度により決定されます(FIT 制度の下で既認定しているものが FIP 制度へ移行する場合には、基準価格は FIT 調達価格から変更されず、また、交付期間は、FIT 調達期間の残存期間とされます)。参照価格は市場価格に連動し、1 カ月単位で見直されます。

### ■ プロロジスと大阪ガスとの契約内容

プロロジスは、「プロロジスパークつくば 2」に設置した太陽光発電設備の発電容量約 3.5 メガワットの電力・環境価値を2025年2月から提供する予定です。

プロロジスは、本契約によって、長期間にわたり固定単価で売電できることにより再エネ開発投資の収益予見性を高め、自社の物流施設の屋根を活用した太陽光発電事業の一層の事業規模拡大を図ります。大阪ガスもプロロジスからの継続的な再エネ電力の買い取りにより、再エネ事業規模をさらに拡大でき、両社の取り組みは地域共生の再エネ普及貢献に繋がる、といえます。



FIP 制度を活用した、プロロジスと大阪ガスのスキームイメージ

### ■ Daigas グループのカーボンニュートラル実現に向けた取り組み

大阪ガスの子会社や関連会社を含む「Daigas グループ」は、2023 年 3 月に「エネルギーtransition 2030」を策定し、エネルギーの低・脱炭素化への移行に向けた道筋の全体像、2030 年に向けた具体的な取り組みを示しています。その中で、2030 年度までに自社開発や保有に加えて、他社からの調達も含めて、国内外で 500 万 kW の再エネ電源の普及に貢献することを目指しています。今回の契約締結においても、再エネ電源の普及拡大に通ずる活動のひとつと考え、着実に取り組んでいきます。

### ■ プロロジスのネットゼロにむけた取り組みと「プロロジス・グリーン・ソリューション」

プロロジスは 2040 年までに、バリューチェーン全体(スコープ 1・2・3)で温室効果ガス排出のネットゼロを目標としており、温室効果ガス削減のためのさまざまな施策を展開しています。また、プロロジスの事業運営における削減にとどまらず、入居企業の電力グリーン化・環境負荷軽減を支援する「プロロジス・グリーン・ソリューション」を進めています。2023 年 1 月には東京オフィス内に「エネルギー事業室」を新設。新規エネルギー事業や、再生可能エネルギーの活用に取り組むとともに「プロロジス・グリーン・ソリューション」の一環として顧客の電力グリーン化を支援しています。

今回活用する「プロロジスパークつくば 2」の太陽光発電設備は、ネットゼロに向けた中間目標として定めている「2025 年までに 1GW の太陽光発電キャパシティ(蓄電池分を含む)」実現に寄与します。

#### 【ネットゼロに向けた主な軌跡】

- 2018 年: 物流 REIT として初めて SBTi に排出削減目標を認定される
- 2019 年: スコープ 1・スコープ 2 においてカーボンニュートラルを達成
- 2022 年: 年末時点で 400MW の太陽光発電キャパシティを達成
- 2023 年: 東京オフィス内にて「エネルギー事業室」を立ち上げ

# プロロジスのネットゼロ宣言



## ■ ESG レポート

2023年5月31日には、世界19か国でのESG目標に対する進捗をまとめた2022-23年のESGレポートを発表しました。

プロロジスは今後も事業運営における環境負荷軽減に取り組むとともに、再生可能エネルギーの提供やエネルギーマネジメントを通して、カスタマーのサステナビリティに関する目標達成をサポートしてまいります。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先  
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム  
[https://ma.prologis.co.jp/form\\_inquiry\\_media](https://ma.prologis.co.jp/form_inquiry_media)